

## ◇ 10 月の天文暦 ◇

日 時	記 事
2 22	上弦
5 5	月最遠
8~10	竜座 $\gamma$ 流星群
8 21	寒露(太陽黄経 195°)
10 23	望
18~23	オリオン座 $\nu$ 流星群
18 4	下弦
20 5	木星留
20 20	月最近
21 0	土用(太陽黄経 207°)
24 0	霜降(太陽黄経 210°)
24 23	朔

## 水星と金星の自転周期

7月号で冥王星の自転周期についてのべたが、最近レーダーにより水星と金星の自転周期が測定されたので、今月はこのことについてのべよう。

水星の自転周期をはじめて測定したのはスキヤパレリ(1889)で、表面の模様から水星がいつも同じ面を太陽に向けているとして、公転周期と同じ 88.0 日であることを示した。その後ローウェルやアントニヤジも水星の模様を観測して同様のことを確認し、かなりくわしい水星図まで作っている。ところが今回プエルト・リコの Arecibo 電離層観測所 1000 フートレーダーによる反

射波の解析によると、水星は  $59 \pm 5$  日の周期で西から東へ自転しているらしい。これはコーネル大学の Pet-tengill と Dycek より、今年4月8日の内合のさい行なわれた観測によるもので、使用した周波数は 430 Mc/s (70 cm) とのことである。もしこれが本当だとすると、いままでの水星の観測はすべてもう一度検討しなおす必要がある。

金星の自転周期は昔からなぞであつた。にしる表面が厚い雲におおわれているばかりした模様が見えないからきめようがない。スペクトルにドブラー偏移が見られないことから、非常にゆっくり自転していて公転周期と同じ程度とする説から、表面温度がかなり一様なことから、相当速く自転していて1日ぐらいとする説まで、いろいろな説がたてられた。ところが最近レーダーで距離が精密に測られてから、電波で自転を測る試みが行なわれている。1964 年 Arecibo の観測によれば  $247 \pm 5$  日で逆転しているらしい。さらに 1964 年2月~8月に、ジェット推進研究所(ゴールドストン)の Carpenter が 2388 Mc/s (12.5 cm) で調べたところによると、自転周期は  $249 \pm 7$  日の逆転で、自転軸の向きは  $\alpha = 17^h 04^m$ ,  $\delta = +67^\circ$  と Arecibo とよく一致する値をえている。

しかし一方、光学的観測から4日で逆転しているという説(1965 年1月パリ科学アカデミーでの Boyer, Camichel および Guinot の発表)もあり、美の女神ヴィーナスはなかなか本質を示してくれない。

## 東京における日出入および南中(中央標準時)

X 月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
日	時 分	時 分	時 分	時 分		時 分	時 分
1	5 2	5 35	- 2.9	11 31	51.5	17 26	17 59
11	5 11	5 43	- 7.6	11 28	47.6	17 12	17 51
21	5 19	5 52	-12.2	11 26	44.0	16 59	17 32
31	5 28	6 1	-16.5	11 25	40.5	16 48	16 21

## 各地の日出入補正值(東京の値に加える)

(左側は日出、右側は日入に対する値)

分	分	分	分	分	分
鹿兒島 +33	+40	鳥 取 +22	+22	仙 台 - 1	- 7
福 岡 +36	+39	大 阪 +17	+18	青 森 + 2	-10
広 島 +28	+30	名古屋 +11	+11	札 幌 + 2	-15
高 知 +23	+27	新 潟 + 5	0	根 室 -15	-32

